

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：17301

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K20093

研究課題名（和文）複合差別を克服するための支援者の学習 カナダの先住民女性のコミュニティの事例

研究課題名（英文）Raising awareness to combat intersectional discrimination - the case of an aboriginal women's community in Canada

研究代表者

矢内 琴江（YAUCHI, Kotoe）

長崎大学・ダイバーシティ推進センター・准教授

研究者番号：60732667

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、カナダ・ケベック州における先住民女性の支援コミュニティの実践分析を行い、マイノリティ女性たちが経験している複合差別を克服する実践における実践者自身の学びのプロセスとその構造を明らかにすることだった。その際、先住民女性の支援コミュニティが形成されたケベックにおけるフェミニズム運動の実践的・思想的展開を明確化しつつ、支援コミュニティを立ち上げた設立者の実践記録を基に実践者自身の学習過程とその構造を明らかにした。以上により、複合差別を克服する実践を支える実践者の学習をデザインするために必要な諸要件を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は次の2点である。1点目は、英語圏を中心に行われてきたフェミニズム研究に対して、ケベックという北米のフランス語圏におけるフェミニズム運動の歴史的展開を日本に紹介した点である。2点目は、社会教育学研究では十分検討されていない学習支援におけるインターセクショナリティの視点を提示した点である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to analyze the practices of a support community for indigenous women in Quebec, Canada, and to identify the learning process and structure of practitioners in the practice of combating intersectional discrimination experienced by minority women. While clarifying the development of the feminist movement in Quebec, where the community of support for aboriginal women was created, the learning process of practitioners and its structure were clarified on the basis of the narrative of practice of the founders who created the community of support. Thus, we were able to obtain the necessary conditions for designing practitioner learning to support the practice of combating compound discrimination.

研究分野：社会教育学

キーワード：ケベック 先住民女性 フェミニズム インターセクショナリティ 組織学習

1. 研究開始当初の背景

(1) インターセクショナリティをめぐる研究

研究開始当初、日本では複合差別及びインターセクショナリティという概念が、マイノリティや差別の問題に関する議論の中で、特にマイノリティ女性(在日女性、移民女性、部落女性など)が経験する被差別状況を描写するために用いられ始めていた。特に、国内の研究では、複合差別の克服に関して、国内の法制度、国際人権法などに関する研究(元百合子 2018, 2016; 臼井久美子 2016; 瀬山紀子 2014 など)がほとんどであり、教育学の観点からの研究は見られなかった。そこで本研究では、フェミニスト教育学の bell hooks が『とびこえよ、その罅を』(里見実監訳、2006 年、原書は 1994 年出版)の中で、マイノリティ女性に対する差別の問題をコミュニティにおけるコミュニケーションの問題と捉えた点をベースとした。なぜなら、マイノリティを生み出し、周縁化するのには、コミュニティ、さらには社会全体における、家父長制的・植民地主義的・資本主義的な支配関係を維持する知の伝達と認識の構造に他ならないからである。

(2) カナダ女性問題

本研究開始当初は、カナダ「行方不明または殺害された先住民女性と少女に関する全国調査委員会」(2016 年～2019 年)による調査報告が発表された直後だった。この調査報告書では、行方不明・殺害された先住民女性たちは、公的支援を求めたものの、職員の差別的な対応や無理解などによって、適切な支援を受けることが出来なかったことが明らかにされ、同委員会は、職員自身の意識改革と、職員と先住民女性との信頼関係の構築をめざした職員の教育の必要性を唱えていた。

(3) 対人支援職の力量形成と複合差別の視点

ケベックでは、社会心理学者でありフェミニスト教育学者の Louise Lafortune らが(2018 年)女性支援者が複合差別視点をもった支援の能力を向上させるには、伴走型研修が一定の効果があったことを指摘している。しかしながら、フランス語圏においても、日本においても、先住民女性をはじめとするマイノリティ女性と関わる対人支援の現場における支援者が、より適切な支援を行なっていくための学習のあり方について論じた研究は見られなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、カナダにおけるパートナーからの暴力を受けた先住民女性の支援コミュニティ Missinak の実践分析を通して、マイノリティ女性たちが経験している複合差別の克服をめざす実践の中で、支援者自身がいかに学び、実践を向上させていっているのか、そのプロセスと構造を明らかにすることとした。

3. 研究の方法

コロナ禍の影響もあり、当初予定していた現地調査を実施することはできなかった。以下の 3 つの方法で研究活動を推進させた。

(1) 文献調査

ケベックのフェミニズム史の翻訳と文献調査を行った。
フェミニズム思想におけるインターセクショナリティ概念を検討した。
先住民女性問題に関する文献調査を行った。
国内の実践事例の収集(文献調査・大阪調査)を行った。

(2) 国内外の実践分析研究

Missinak の実践記録に着目し、支援者の学習プロセス及びコミュニティ形成のプロセスについて組織学習論的観点から分析を行った。
日本の学校教育および社会教育における複合差別を克服のための組織学習に関する実践記録に焦点化し、実践記録を軸にした支援者の力量形成のあり方を検討した。

(3) ラウンドテーブルの実施

異なる領域・分野・世代の人びとが実践報告を通して、その実践の意義や複合的差別を克服していくための実践の展開における課題などについて共同的に省察するラウンドテーブルの手法を用いた研究会を実施した(「女性や若者の生きづらさをなんとかしたい」講座からできたサークルと共に学び合う「場」を作る試行錯誤」、登壇者：鈴木麻里(西東京市田無公民館・専門職員)、2022 年 5 月 11 日)。

4. 研究成果

(1) 多様な主体からなるケベック・フェミニズムの歴史的展開と、その展開過程に内在する複合差別を克服していくための視点を明らかにすることができた。

(2) 先住民族女性の支援コミュニティ Missinak の生成・展開プロセス、先住民女性の尊厳の回復プロセス、支援者の力量形成のプロセスを相互関係的に叙述することができた。それにより、複合的差別を克服していくための支援者の学習に必要な諸要件を抽出することができた。その成果は、「第 6 章 先住民族女性たちと CQC の出会いはどのような実践を生み出したのか」(矢内琴江『性差別を克服する実践のコミュニティ カナダ・ケベック州のフェミニズムに学ぶ』、明石書店、2024 年 5 月、pp.173-193) にまとめ、出版された。

(3) 国内外の実践に関しては、学校教育及び社会教育における実践に焦点を当てて、ラウンドテーブルの実施、実践事例の収集、実践記録の分析を行った。それにより、支援者による実践記録を読むことを通した組織学習が、差別、人権、ダイバーシティなどを学ぶ学生教育にも有効であることが分かった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 矢内琴江	4. 巻 14
2. 論文標題 ケベックのフェミニスト・スタディーズのパイオニア、ミシュリンヌ・デュモンが語るフェミニズム史 フェミニスト教育学の観点からの考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ケベック研究	6. 最初と最後の頁 177-192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢内琴江	4. 巻 1
2. 論文標題 ケベックのフランス語系大学における性の多様性の尊重に向けた取り組み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 長崎大学ダイバーシティ推進センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 26-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 矢内琴江	4. 巻 10
2. 論文標題 抑圧の歴史から信頼の歴史へ カナダの先住民女性の支援コミュニティが生み出す知	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ジェンダー研究21	6. 最初と最後の頁 26-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 矢内琴江	
2. 発表標題 秋桜高校から私が学び続けていること	
3. 学会等名 地域民主教育全国交流集会 5月準備集会（招待講演）	
4. 発表年 2022年	

1．発表者名 矢内琴江
2．発表標題 長期的展望に立った実践分析研究の方法に関する研究 記録を読むことと共同学習の組織化ー
3．学会等名 日本社会教育学会第69回研究大会
4．発表年 2022年

1．発表者名 矢内琴江
2．発表標題 先住民族女性たちの現在
3．学会等名 第36回北方民族文化シンポジウム網走「北方諸民族文化とジェンダー」（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1．著者名 矢内琴江	4．発行年 2024年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 269
3．書名 性差別を克服する実践のコミュニティーカナダ・ケベック州のフェミニズムに学ぶ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------